

# 人権啓発センター だより

平成29年2月

No.38



## 雑 感

「部落差別解消推進法」が昨年の12月9日参議院本会議で可決・成立した。すでに制定された「ヘイトスピーチ解消法」と同様、罰則規定のない理念法ではあるが、法律名称に「部落差別」という文言が使用されたのは画期的なことである。

この法律は「現在もおお部落差別が存在する。」「日本国憲法の理念にのっとり、部落差別は許されないものである。」「部落差別の解消を推進し、もって部落差別のない社会を実現する。」などと明記している。

そして、国及び地方公共団体の責務、相談体制の充実、教育・啓発、部落差別の実態調査の実施などを求めている。

1969（昭和44）年制定の「同和対策事業特別措置法」以来から2002（平成14）年「地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」の事業終了までの33年間、住環境などにおいて改善はみられた。

しかしながら、2000（平成12）年「人権教育・人権啓発推進法」においても差別意識の改善などをめざしたものの、インターネットでの同和地区の地名リスト掲示など新たな問題も発生し、現在もおお部落差別が存在している。その解決のためにもこの法律の制定が急がれていた。まさに念願の法律である。

（研修啓発課 山本）

## 人権あれこれ

### ～「障害者差別解消法」から人権について考える～

朝の通勤途中ではいつもラジオを聞いており、40分位の時間だが、国内外や県内のニュース、天気予報など多くの情報を得ることが出来る。一方で、聴取者からは様々な投稿が寄せられる。ある日、障害のある人の家族の思いなどが紹介されていたとき、投稿の中の一つに「店のレジが混んでいるときなどは、車いすなど障害のある人は、遅くなるので、他の人に順番を譲ってあげると、みんなが助かると思う。」などと言った内容のものがあつた。この考え方は譲り合いの精神を美徳とするものであつて、人権の視点で考えると、どうかな?と思った。

昨年の4月にスタートした「障害者差別解消法」では、障害のある人に対して、正当な理由なく障害を理由として差別することを禁止する

「不当な差別的取扱の禁止」と、障害のある人から、社会の中にあるバリア（障壁）を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、会社や店などは負担が重すぎない範囲で対応することに努めなくてはならない、とする「合理的配慮の提供」の二つがポイントとなっている。

この法律は障害のある人もない人も共に生きる社会をめざすことを目的としているが、人権を守ることや差別をしないということは、憐れみや同情ではなく、対等な立場で、人としての尊厳を考えることではないだろうか。



（研修講師 中西）



## 一押し本

### 『くまのトーマスはおんなのこ ～ジェンダーとゆうじょうについてのやさしいおはなし～』

ジェシカ・ウォルトン作 ドゥーガル・マクファーソン絵 川村安紗子訳  
ポット出版プラス (2016年12月発行) (1,500円+税)

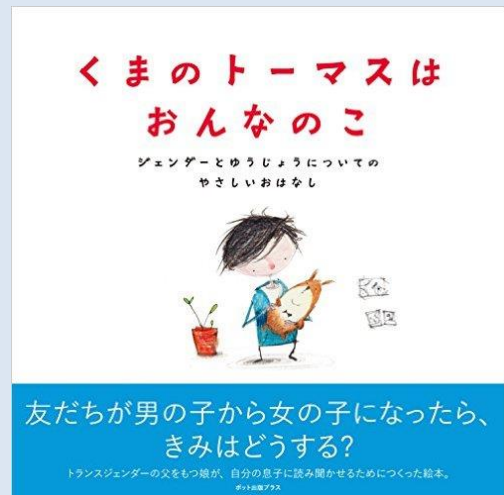
くまのトーマスは、ずっと女の子になりたいと悩んでいました。でも、打ち明けたら、親友のエロールはもう友だちではなくなってしまうかもしれない…。そんなトーマスの本当の気持ちを聞いたエロールの答えは、「大事なのはきみがぼくのともだちってことさ」。

作者のジェシカ・ウォルトンはバイセクシュアル(両性愛者)の女性で、父親は、男性から女性に性別移行したトランスジェンダーだったそうです。本作は、ジェシカが、自分の息子エロールに家族の多様なあり方を伝える絵本が欲しいと思ったことがきっかけで作られました。

あとがきには、「なかなか本心を打ち明けられず男性として大人になった」今は女性の方がこう書いています。



生まれたときの性別と心の性別の違いに悩む子どもたちにとって、くまのトーマスとエロールの物語はどれほど勇気をもらえるでしょう。また同時に、もし友達や兄弟、家族から同じような悩みを打ち明けられた時、どう接するべきかのヒントを、この本は示してくれています。



※本文は、すべてひらがなとカタカナ。  
幼い読者がひとりでも読める本です。

(企画啓発課 宮田)

## ★人権啓発DVDのご紹介★

### 「認知症と向き合う」(上映時間 30分)

本作品は、認知症によくみられる症状、認知症の人の思いと家族の気持ちの変化、症状の理解、介護者の交流の大切さなどを描いたドラマ教材です。認知症の人もその周囲の人も、よりよく生きていけるように、正しい知識を深めることを目的に制作しています。

認知症専門の杉山孝博医師は、基礎知識として次の3つを提示しています。

- 記憶になれば本人にとって事実ではない
- 本人が思ったことは本人にとって絶対的な事実
- 認知症が進行してもプライドを持ち続けます

《企画・制作 東映株式会社 教育映像部》



※じんけんライブラリーには、現在212本のDVDを所蔵していますので、ぜひご利用ください。





## 事業報告

### 平成28年度人権啓発研修ハートフルセミナー

#### 被害者支援講演会「被害者の心を支える人がある」

- 日 時：1月22日（日） 13時30分～15時30分
- 講 師：（公社）被害者支援都民センター理事長 飛鳥井 望氏
- 参 加 者：81名

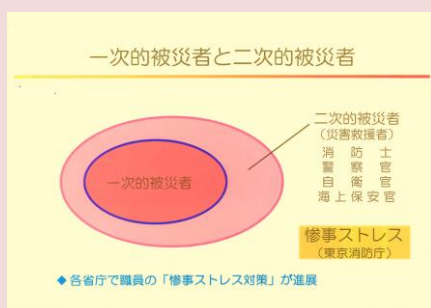
講師の飛鳥井さんは精神科専門医として病院の副院長を務められる傍ら、阪神・淡路大震災や東日本大震災などの災害現場にも赴き、被災者らの心のケアに携わってこられました。

今回は、災害時に救助や支援する側が受ける「惨事ストレス」についての予防とケアについて大変わかりやすくお話いただきました。



#### 【参加者からのアンケートより】

- ・大規模災害が予測されるなか、惨事ストレスの状況と対応策について素人にも解りやすい講演でした。大変良かったです。
- ・惨事ストレスがあることを知っておくことで災害時に皆で声を掛け合いながら、確認しながら支援をするよう心がけできると思います。南海大地震を迎え撃つために心のケアも身につけておく必要性を感じました。
- ・災害が発生して、被害者・支援するものにも精神的な負担・ストレスが起こるメカニズム、そして、どの様に対処すべきかが理解できました。
- ・震災などの被害者の支援についてのお話ではあったが、日常の仕事（職場）のストレスにも共通することがあると感じお話を聞くことができた。
- ・仕事をしていくうえでストレスは必ずあり、本人ができるケア、専門者が行うケア、仲間（まわり）ができるケアがあること、大変勉強になりました。
- ・セルフケアの大切さが印象に残りました。支援者自身がトラウマの構図を理解したうえで、心理教育をまず丁寧にしていくことが大切だと思いました。
- ・人権研修の一環で参加したが、今後の大地震について、非常に参考になった。心して取り組むべき問題だと思った。



# Information お知らせ



## 平成28年度人権啓発研修

### ハートフルセミナーの紹介

#### 「given〜いま、ここ、にある しあわせ〜」上映会

これは、あなたの映画ですー。

あなたの見えなかった〈しあわせ〉が見えるようになる 人間ドキュメンタリー

- 日 時：2017年2月25日（土）  
午後1時30分～
- 場 所：高知県立人権啓発センター6階ホール
- 参加費：無料
- 定 員：270名（事前申し込みは不要です）

愛する家族の病気や死…

これは思いもよらなかった〈現実〉と向き合う3組の家族の  
日々の物語。

一度は〈どん底〉に突き落とされた家族たち。

でも、いま、輝いているのは、あることに〈気づいた〉から…

あなたも一緒に、探してみませんか？

いま、ここ、にある〈しあわせ〉を。

明日への大きな勇気をもらえる、

あなた自身の確信へとつながる映画です。

主催：（公財）高知県人権啓発センター・高知県  
「新老人の会」高知支部

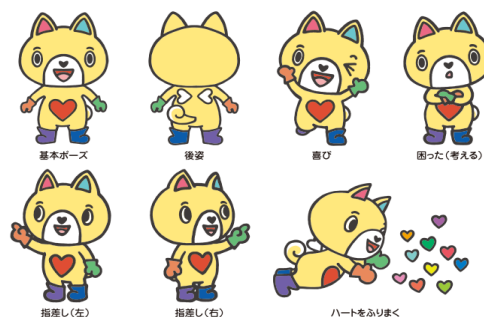


〈制作・配給〉  
（公社）難病の子どもとその家族へ  
夢を



「こころん」イラストは高知県人権啓発センターのホームページより  
ダウンロードしてお使いいただけます。 高知県人権啓発センター

基本デザイン（7種類）



#### 《お問い合わせ先》

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号  
公益財団法人高知県人権啓発センター

TEL:088-821-4681・FAX:088-821-4440

E-mail: [center@kochi-jinken.or.jp](mailto:center@kochi-jinken.or.jp)

HP: <http://www.kochi-jinken.or.jp/>